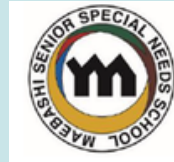




地域支援だより



群馬県立前橋
高等特別支援学校
支援推進部

令和8年6月発行 No.1

特別支援教育センター的機能校として、北部エリア高等学校とともに歩みながら、各高等学校が自ら解決していく力を育てるお手伝いをしています。

① ごあいさつ

令和8年度新学期が始まり、2ヶ月が過ぎました。学校にも慣れ始め、子どもたちの様々な症状が見られ始める頃と思われます。センター的機能校相談業務は始まっておりま！特別な配慮や支援を必要とする子どもたちに対応できる知識やスキルを高め、学校の自力解決力向上に向けて共に歩んでいきます！よろしくお願いいたします。

② ブックトーク

臨床経験35年以上の小児科医でもあり、教育・就労・再就職まで多種多様に無期限で支援をする「子育て科学アクシス」を立ち上げられ、多くの子どもたちや家族を救う成田奈緒子先生の著書4冊をご紹介します。神経発達症が疑われる子どもはここ10数年で約13倍に増加！日々の実践のヒントにも繋がる書籍でもあります。

③ 教材トーク

本校では、自立に向けて生活力を育てる学習を様々な教育活動の中で取り組んでいます。その1例を紹介します。進路決定後は、一人暮らしが始まる生徒さんたちもいることと思われます。巡回をする高等学校によっては、長期休暇中に家庭科の先生から家事の手伝いの課題が出され、保護者にもコメントを記入いただき家庭と連携しながら自立力を高めている事例もあります。

本

ブックトーク おすすめの4冊



①『「発達障害」と間違われる子どもたち』
著者：成田奈緒子（青春出版社）

「発達障害もどき」という言葉は、この著書の中から生まれています。発達障害と呼ばれる子どもたちの劇的な増加から、著者は増加しているのは「発達障害」ではなく、「発達障害もどき」ではないかと示唆されています。「発達障害もどき」とは？を説明、改善にはどのような生活が大切なのか、支援者は何をすればいいのかがわかる1冊です。自立ができる人間らしい脳の発達には「からだの脳→おりこうさん脳→心の脳」と3つの段階があり、脳科学の視点から生活改善のすすめを指南してくれる書籍です。『マンガでわかる「発達障害」と間違われる子どもたち』も出版されました！隙間時間に手にとってみませんか。



②『その習慣が子どもの才能をダメにする』
著者：成田奈緒子 上岡勇二（SB新書720）

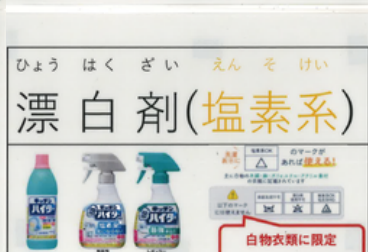
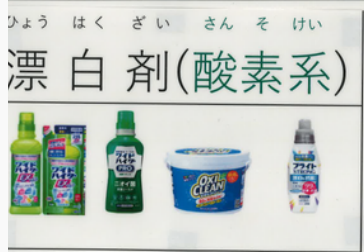
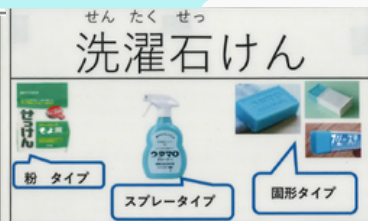
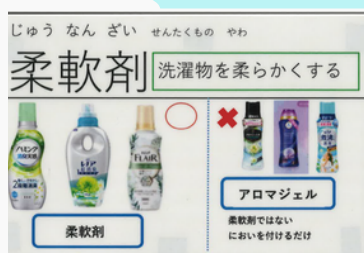
日々の習慣が子どもの脳に大きな影響を与えるそうです。習慣や生活環境によって発達は大きく変わることを教えてくれる1冊です。「子どもが元気に生きられる脳」を育てる重要さと、自立までの課題に対応する力を養う方法を伝える指南書です。



③『その一言が子どもの脳をダメにする』
著者：成田奈緒子 上岡勇二（SB新書663）

言葉によるコミュニケーションは子どもの脳の発達には重要です。しかし否定的な言葉は、子どもたちにとって大きなストレスとなり、脳に深刻なダメージを与えてしまうそうです。子どもの認知力、自律力、思考力を伸ばす適切な言葉掛けを具体的に教示してくれる支援者のバイブル的書籍です！

教材トーク



本校家庭科「洗濯をしよう」の題材で活用している視覚支援の紹介です。洗濯洗剤にも様々な種類があり、その用途は異なります。混ぜて使うと危険なものもあります。実物を画像で示し、視覚支援を取り入れ継続的に指導をすることで、正しく理解をしながら洗濯ができる力に繋がっていきます。次頁ではワークシート等の紹介をします。

特性のある子どもたちは視覚優位であることが多いとされています。視覚支援を取り入れた指導は、ユニバーサルデザインの視点に基づく工夫の一つです。また、視覚支援は「誰にとっても分かりやすい授業」を実現するための重要なステップでもあります。

教材トーク 補足 ワークシート例

洗濯をしよう

3年 組 番 名前

今日の作業：せんたくのしかたをおぼえよう

気をつけること

- ・せんたくのひょうじを確認しよう。
- ・かたづけをさいごまでする。

つかうもの：考えよう

準備：つかうものをよういしてからはじめる

1 手洗いの仕方や部分洗いの仕方 を みてみよう

※ iPadで QRコードをよみとって 使い方を みてみよう。



手洗いの仕方



汚れがひどいとき

ご飯の炊き方

1 道具を用意する



〔 教材共有提供：本校 須田教諭より 〕

特別支援教育の窓から

文化祭の準備の手伝いをしていたときのことです。3年女子生徒が自身の手で作業製品を近づけてみながら、集中して黙々と一生懸命に作業に取り組んでいました。そのような姿に成長を感じ、目の前にいた女子生徒を褒めました。すると彼女は、自身の症状について話し始めました。「私の目はぶるぶるふるえちゃうんです。だから眼鏡を掛けています。お医者さんに眼鏡をかけたほうがいいよと言われて掛けています。幼稚園のころはしていなかったけど。だから見るのが大変。」一通りの説明が終わると、彼女はまた黙々と作業に取り組み始めました。知的遅れのあるダウン症の女の子です。私の顔を見上げながら説明をする彼女の目は、本人が言うとおりに眼振が見られました。きっと焦点が合いにくく、見ているものはぼやけ、物が揺れて見える等

私たちは見え方が違う中で生きている本生徒であることを感じました。彼女は生まれながらにして頸椎にも障害があり注視が難しい状況でした。視覚検査ですぐに視線がずれてしまうために検査が難しいことも共有されていました。しかし本校の作業学習を重ねることにより、注視までに数秒の時間が要するものの注視する力は育ち、向上していました。1年次に比べると格段と作業が速くなったことを、3年間関わり続けている学年主任も話していました。私たちが目指す生徒像は、本生徒のように、自身の特性を知り、「どのようにするとできるようになるのか」を自分の言葉で説明ができる力を身につけることであることを改めて実感しました。ダウン症の女子生徒とのほんの束の間のやりとりは、大切な気付きを与えてくれる時間となりました。

2 つかうものをかんがえよう

① なまえをおぼえよう



せ

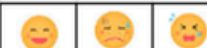
ブ

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇せ

ふりかえってみよう

道具をぜんぶもってきた。



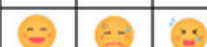
先生とのやくそくがまもれた。



かたづけをさいごまでできた。



きれいにあらったりほしたりできた



授業では、気をつけること、使うもの等の復習を取り入れながら洗濯の練習に繋がっていきます。洗い方の動きが分かるように、個々のタブレットで動画の確認もします。見て聞いて書いて、そして実体験学習を繰り返すことにより学習内容理解が深まります。体験学習は正に多感覚学習になります。体を使いながら学習を進めることで認知力を育てる基礎感覚も入ります。授業のまとめでは振り返りをします。振り返ることが学びを結び付けるユニバーサルデザインの授業にもなります。自己評価は自己理解にも繋がっていきます。自立生活に欠かせない米とき学習も手順を添え、見て確認をしながら学習をしているそうです。カード例を添えておきます。

2 お米を量ってとぐ

